

情報連絡員報告・7月分

長い梅雨が不況の追い討ち

～取引先のコストダウン要請に悲鳴～

< 東京都中央会 >

7月の情報連絡員報告によると、長い梅雨が衣料品、電気製品等に厳しい試練を与えていることが明らかになった。数値的には、「業界の景況」前年同月比DIは製造業が-43.1、非製造業が-44.7で、6月の数値と大差はないが、報告欄には長い梅雨が不況に追い討ちをかけているとの報告が非常に多い。また、紙器製造業、工場団地から取引先のコストダウン要請がきびしいと、悲鳴に近い報告も寄せられている。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

< 特記事項欄より >

飲料製造=大手企業の参入、安価格、さらにこの天候では、生き残りに必死な中小企業には非情な状況です。

帽子製造=長雨の影響で業績悪化。夏物商戦全滅につき今年は試練の年。

電気機器卸=エアコン等は梅雨明けが遅れ、前年比大幅マイナス。

玩具人形卸=長い梅雨のため、夏の季節商品である水遊びもの、花火などの需要が減少。不況の追い討ちといった状況。

衣料品小売=気温が上がらず、アウター盛夏物の売上が極端に悪い。

自転車小売=長雨により来店率減少、修

理の客も少なく、収入が落ちる。

古書籍販売=古書業界の景況は、総じて低迷している。7月は長い梅雨が続き客足が悪く、売上は伸びなかった。

秋葉原電気街=7月に入って真夏日も熟帯夜もほとんどなく、梅雨明けも遅れエアコン・扇風機は前年比30%ダウン、もう取り返しはきかない。

菓子製造=製品の成分分析・細菌検査コストが増大傾向。

紙器製造=コストダウン要請に対し、これ以上質を落とせず、限界点ギリギリの取引が増えている。

製粉業=管理経費の削減等で利益はかるうじて維持している。

羽田工場団地=永年、下請関係にあった大口受注先からも、品質よりも単価を優先する通告があり、量の確保か、採算の維持かの二者択一を迫られる業者が増加。

建具製造=経営者の声を聞くと、仕事量、売上高は3年連続して低下しているという回答だ。

ゴム製品製造=銀行の締付けが一段と厳しくなり、通常の手形割引にも影響が出ている。

塗料製造=自動車、電機関連を除き売上の低迷が続いている。

潤滑油製造=首都圏での新たなディーゼル車の排出ガス規制に対応したディーゼルエンジン油の開発等を実施中。

鍍金業=受注減により事業を廃止する組

合員が続出している。

建材製造=首都圏では物が動いているが、価格は低迷している。首都圏以外では少数の特殊品だけが動き汎用品の動きはない。

<要望事項欄より>

* 真剣な景気浮揚策を望む。

[ニット衣料製造、帽子製造]

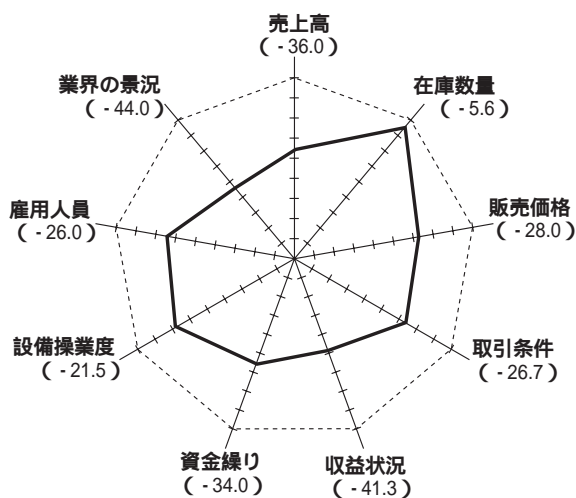
* 代替技術のない有害物質の規制は事業の存続が困難となるので、公設試験研究機関で研究開発に取組み技術を公開して欲しい。

[鍍金業]

* 高速道路料金別納事業について、一部の悪質な組合の存在により大迷惑を被っているが、制度を正しく運用するよう指導・監督を望みます。

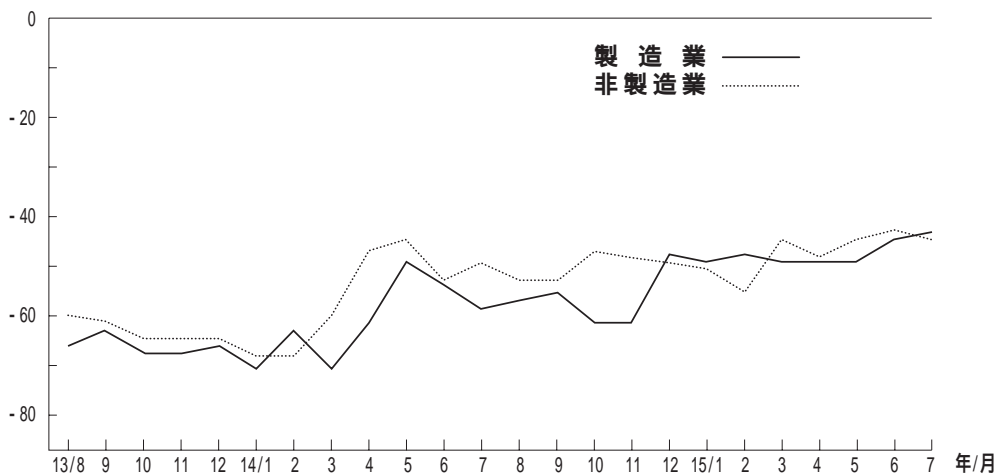
[トラック運送]

7月のレーダーチャート(全産業、前年同月比DI値)

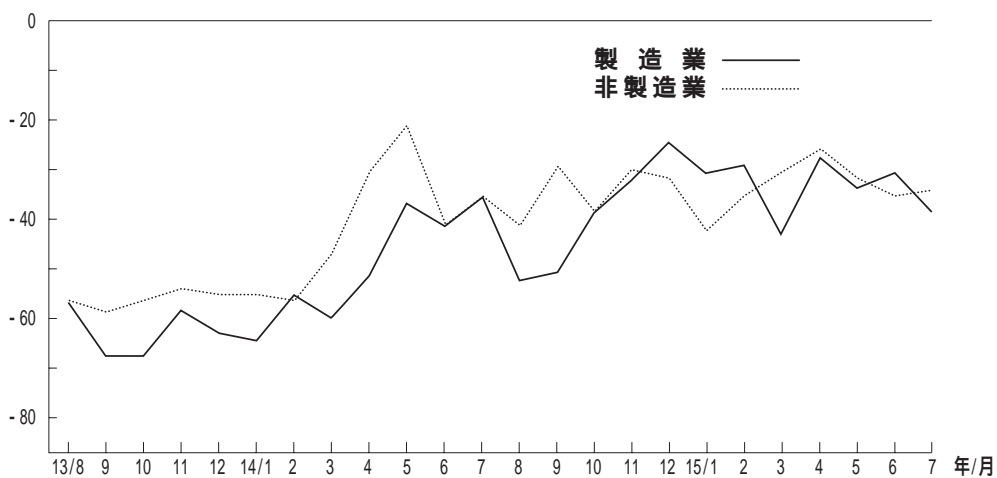


(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

業界の景況DIの変化
(前年同月比)



売上高DIの変化
(前年同月比)



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。